



2024年10月28日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 本多 弘明  
(東証スタンダード・コード 7162)  
問合せ先 執行役員 西潟 しのぶ  
電 話 03-5447-8400

## 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績速報値と2024年3月期第2四半期(中間期)連結業績との差異見込みに関するお知らせ

2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績は、2024年11月1日(金)に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、下記のとおり速報値としてお知らせいたします。なお、速報値につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

この結果を受け、2025年3月期第2四半期(2024年4月1日～2024年9月30日)と2024年3月期第2四半期(2023年4月1日～2023年9月30日)の業績に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。各セグメントの概要説明は、11月1日に開示する2025年3月期第2四半期(中間期)決算短信にてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績速報値(2024年4月1日～2024年9月30日)

単位：百万円	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益
2025年3月期第2四半期 (中間期)連結業績速報値	10,152	495	412	355
2024年3月期第2四半期 (中間期)連結業績(実績)	7,257	388	276	235
増減率(%)	39.9	27.4	49.4	50.7

※ 当中間連結会計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

当中間連結会計期間末を越えて受渡しが行われる電力現物先物取引は時価評価の対象ではありませんが、当該取引をヘッジする目的で行う電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価の対象となります。電力先物取引のうち、一部取引所では取引所の規定によって3か月以上の期間のポジションは期末が近付いた段階で決済され、より短い期間の新たなポジションに分割されます。これに伴う決済利益12百万円(純額①-1)と、当中間連結会計期間末を越えて限月を迎える電力先物取引の時価評価益42百万円(純額①-2)は、当中間連結会計期間末を越えて受渡しが行われる電力現物先物取引と同一の会計期間に認識されないため、当中間連結会計期間の営業収益を押し上げ、電力取引関連事業のセグメント利益を増加させる要因となっております。

一方、同様の理由で、当中間連結会計期間に受渡しが行われる電力現物先物取引をヘッジする目的で行われた電力先物取引に係る前連結会計年度に認識された決済損失10百万円(純額②-1)及び時価評価損24百万円(純額②-2)は当中間連結会計期間の営業収益を押し上げ、電力取引関連事業のセグメント利益を増加させる要因となっております。

①と②を総合すると、結果として当中間連結会計期間の営業収益とセグメント利益はそれぞれ合計91百万円(91=12+42+10+24)押し上げられております。

#### 2. 2025年3月期第2四半期連結業績速報値と2024年3月期第2四半期連結業績との差異の理由

2021年秋以降、「中期ビジョン2025」の方針に則り、事業の選択と集中等を行い、事業基盤の強化・再構築を進めておりますが、電力小売事業にて顧客への電力供給が安定的に行われたことや、再生可能エネルギー関連事業にて当社グループが所有する2.1MW規模の太陽光発電所が4月末に完工したこと、ディーリング事業が市場環境の影響もありセグメント利益が前年同期間比増加となったこと等により、当社が営む5事業全てがセグメント利益となりました。(前年同期間は3事業がセグメント利益)

以上